

(イ) と云ふは、我々は、我々自身の当面の戦線統一運動——統一会議、江東位協、総評議会、並に各地の軍機組合の統一を中心とする統一運動——に對しては、それが、既成の諸組合の、軍たる方面でなく、『最も理想的な強力が新同盟の結成』を目標としたものであること及び堅持を期す。

(ロ) 従来、行はれ来た、多くの無産階級——無産政党、労働組合、農民組合、等々——の共同運動は、大抵は、幹部同志の話し合ひ(主として幹部間の利害關係の協定)だけや誰の助けも求めたのではありませんが、それは、決して新に出来上つた新運動が、うまく行くわけがないのであります。従来、怠りをしてあつた『合同したかと思ふ』と直ぐに分裂する』といふやうな態度は、せうしたやり方から来るのだと思ひます。

だから、我々の場合には、さうした性質のやり方とは全く別な、模範的な『戦線統一運動』を實行する必要が、是非あると考へるのであります。

(ハ) この意味に於て我々は、新同盟の結成(各組合の合同統一)を實現するまでの過程に於て、次の諸事業に、非常な努力を拂ふ必要があると確信してゐるのであります。

1. 各組合の指導部並に会不蒙の協力によつて、新同盟の確たる運動方針を確立すること。
2. 戦線統一運動に参加せる各組合間の完全なる共同斗争を行ひ、大衆的提携を計ること。
3. 産業別統一に關する充分なる準備活動をおこなふこと。
4. 右翼組合の影響下にある大衆並に未組織の大衆に對する猛烈なる働きかけをおこなふこと。

5. 交通総聯盟系の諸組合、都市後業員組合、政團系系の諸組合、失業労働者の諸組合、並に自由聯合系諸組合、等々と不斷の聯絡を取り、『全口的、戦線的、組合会議』の結成に關する、準備を進めること。

### 五 新同盟結成準備会樹之の必要

- (イ) と云ふは、右に述べたやうな、戦線統一方針を實現化するまでの間は、先づ第一に、戦線統一(新同盟)の結成(に對する)の全組合にわたつて、『新同盟結成準備会』を樹之する必要があると思ひます。
- (ロ) かくして、この新同盟結成準備会に参加した 諸組合は、各組合のあらゆる斗争——経済斗争、政治斗争、教育活動、等々——をますます、完全なる共同斗争にむけて進行すべきだと考へるのがあります。殊に、ストライキの如きは、それが、いづれかの組合の分會に勃発したものであるらうとも、すべし、新同盟結成準備会が、責任をもつて、それを指導し、各組合が、一音に全力を挙げて争ひ合うにしなければならぬと考へるのであります。
- (ハ) 又、先づ第一に、『新同盟の運動方針の確立』や、『右翼組合の大衆並に未組織大衆に對する働きかけ』や、『全口的組合会議の結成』や、『産別統一に關する準備』等々の事業も、この新同盟結成準備会が主幹となり、それに参加した全組合が、完全に協力して、実行すべきだと考へます。
- (ニ) したがつて、この新同盟結成準備会には、責任ある機関が設けられなければならぬわけ